

7・8月号

ステパノだより

No.278

今月の聖句

『喜ぶ人と共に喜び、

泣く人と共に泣きなさい。』

ローマの信徒への手紙

第12章15節

◎ 7月の予定

1日(土) 学校説明会

7日(金) SAの集い

12日(水) 水泳訓練(小・中) 14日

18日(火) 時間割変更期間 21日

20日(木) 給食終了

21日(金) 一学期終業礼拝・教職員協議会

23日(日) 中郡陸上競技選手権大会(小田原)

24日(月) サマーキャンプ事前指導(中)

25日(火) サマーキャンプ(中)

◎ 8月の予定

3日(木) 西地区陸上記録会(平塚)

9日(水) 一斉休業 16日

22日(火) 私立中学校陸上競技大会(横浜)

23日(水) 漢字検定

26日(土) 中郡総体(二宮)

28日(月) 二期始業礼拝

教職員協議会



音楽会

6月13日、海の見えるホールにて音楽会が行われました。小1から小5、小6から中3と二部に分かれての開催となり、各クラス練習の成果を存分に発揮できたと思います。



◎今月の行事から

○水泳教室(小学校)・水泳訓練(中学校)

三年ぶりの水泳、子どもたちはとても楽しみにしています。

小学校では、まず水に慣れて、楽しんで技能を身につけていくことを目的としています。すでに6月に実施しましたが、回数を重ねてたくさん泳げるようになることを期待しています。

中学校は3学年の縦割りグループで泳力別に練習をします。自分の身を守るために、水に親しみながらゆっくり長く泳ぐ泳力を身につけることが目的です。

ご家庭で持ち物の準備をよろしくご確認ください。また、睡眠・食事をしっかりととり、体調を整えるようご協力お願いいたします。



○サマーキャンプ(7月25日)

中学校では、デイキャンプという形ではありませんが、静岡県富士市にある丸火青少年の家に呼ばれて実施することになりました。

3学年の縦割り班で活動します。中3の班長を中心に協力して活動ができることを目的としています。自分たちで準備し、達成する喜びを体験してほしいと思います。

精神的幸福度

校長 佐藤 紀明

ユニセフが発表した2020年のレポートカードでは、「精神的幸福度」「身体的健康」「スキル」（学力及び社会的スキル）の3つの側面から各国の子どもの幸福度がランキングされました。日本は調査対象国38か国の中で総合20位という結果でしたが、気になる面もありました。「身体的健康」部門では、医療の発達、病気だけでなく戦争や事故で亡くなる子どもが少なく、子どもにとって安全なシステムが整っている国とされ、堂々の1位です。

しかし、「スキル」部門では、学力において読解力・数学的な分野は5位ですが、社会的スキルの、「すぐに友達ができる」は、対象国最下位で部門ワースト2位という結果でした。学力は高くても社会的スキルは低く、子ども達は「友達作り」が上手ではないと言えます。

また、「精神的幸福度」部門では、「生活に満足している」が対象国最下位になっていて、部門ワースト2位という結果でした。経済的、物質的に豊かな国とされますが、調査の結果では子どもの幸福度は高くないのが現実です。日本は経済的に豊かで健康度も高い国です。それなのに子どもの心の充実感が低いという理由は、今の子ども達が精神的に追いつかれ、一人で悩みを抱えて、様々なプレッシャーに押し潰されそうになっているのだと思います。

その他にも要因はいろいろあると思います。

一番は人と人の関わりの「希薄さ」の影響が考えられます。ITの発達により人と直接話す機会は極端に少なくなりました。ストレスの緩和には、人と直接的な心の触れ合いが重要とされますが、子ども達はゲームやスマホを楽しむ時間が増える一方で、人と直接話す機会が減少し、悩みを抱えやすくなったのだと思います。スマホが登場するまでは、人と人が会話することによりあまり躊躇することなく、楽しく会話をする中で心の触れ合いが自然に行われていました。ところが、大人も子どももそうした機会が大きく減ってきて、それが幸福感の減少に繋がっているのだと思います。

ストレスは、人間にとって必ずしも悪いものではなく、適度なストレスは、やるべきものに意欲を持たせます。嫌々ながらも宿題をやったり、おやつを食べたいけど、もうすぐ夕飯の時間だから我慢するなど、自分の欲求を抑えることや、周りに合わせなければならぬことなど、適度なストレスは人間が社会に適応して生きていく上で必要なものです。

ただし、ストレスは過剰になると、心と体に負担がかかって、心の面では情緒が不安定になったり、抑うつ的になったりもします。体の面では、睡眠の乱れや食欲の不振が生じたり、体調不良が起ることが考えられます。

子どもの頃に心身の乱れの期間が長引くと、やがて成長して大人になってからも社会参加への意欲低下など、及ぼす影響は大きいです。

子どもの「精神的健康」が良くないことは、

日本だけでなく欧州も同じ傾向が出ています。過去の調査より、約3割の国の子どもが学業のストレスを感じて、学校が好きな子どもの割合も減少しているそうです。私達の生活はコロナ禍で大きく変化しました。外出自粛により運動不足や、休校などによる子ども達の身体・精神的成長の遅れが懸念されています。

コロナ禍、ストレス社会と言われる中で、子ども達が一番、ストレスに感じることとは、「親に自分の気持ちを理解してもらえない」ということだそうです。学校で先生や友達、勉強のことで悩んだとしても、家族に自分の気持ちを聞いてもらえない、受け止めてもらえない環境があればストレスは軽くなっています。

しかし、学校で辛いことがあっても家族が話を聞いてくれなかったり、「もっと頑張れ」と一方的に意見を言われるとストレスは増々、蓄積していくので、家族の対応は大事です。

ストレス対処力を伸ばすには、ストレスに耐える力を強くしていくと考えがちですが、頑張りすぎると心は余計に押し潰されます。

そうならないためにも、人に相談することが大切です。子ども達が、家庭や学校で悩みを相談してきたら、そんなことで悩んだらダメだと否定せず、共感しながら話を聞き、寄り添って、どうしていくかを一緒に考えていくことが、大事なことだと思います。子ども達の精神的幸福度を上げていく上でも、学校と家庭の果たしていく役割はとても大きいです。

感謝

事務長 佐藤 雅美

新型コロナウイルス感染症も5類へと移行されたことから、学校行事や地域での行事も活発に行われるようになりました。子どもたちの様子も以前よりとても活気が出てきたように感じ、こちらも観ていて温かな気持ちにさせてくれます。そんな時ふとこんなことを思い出しました。

今ではあまり見かけなくなった駄菓子屋さんですが、私は子どもの頃、そろばん塾に通っていて、そろばん塾の近くに駄菓子屋さんがあったので帰りには必ず百円玉を握り占めて駄菓子屋さんを駆け込んでいました。質より量で、今日は何個お菓子を買えるんだろう？百円で、スナック、フーセンガム、ラムネ、いかなどを紙袋いっぱいになるかなと本気でお菓子を選んで、「一度でいいから思う存分買ってみたい」と叶わぬ夢を抱いていたのを思い出します。

今思えば、駄菓子には合成着色料も保存料も多く使われていたのにもかかわらず、元気に飛び回って、小さいお菓子ひとつひとついろいろな思い出があり、駄菓子屋さんでお店のおばさんとおしゃべりをしてコミュニケーションをとり、百円玉で駄菓子が何個買えるのだろうとお金の価値とおつりの計算を覚え、

お小遣いの使い方を覚えた場所でもありません。

また駄菓子屋のおばさんの一言が今でも忘れられません。誕生日にいつもより多くのお小遣いをもらった私は、いつもより多いお金を駄菓子屋さんを持っていき、「今日は、いっぱい買えるよ！」と駄菓子を袋一杯選びました。そうするとおばさんに「一度に買わないでまた来るといいよ。欲張ったらいけないよ。いつも来てくれるから」と笑って、すこしオマケをしてくれたおばさん。ありがとうございます。温かい気持ちに子どもながらになりました。人の心を温かくさせるってどういう事なのかを考える事ができ、その時なんだか、一つ大人になれた気がした思い出があります。

ステパノ学園にはたくさんの方の温かさがあり、たくさんの方々を支えられています。いつも感謝の気持ちを持つことの大切さを、改めて考えさせてくれます。

私自身、日々の生活の中では、言葉に気を配っています。特に意識しているのは、「ありがとう」という感謝の言葉を忘れないようにすることです。人との対話においても「ありがとう」は魔法の言葉のような気がします。何かを失敗したときにも、感謝の表現で、「お力をいただきありがとうございます」と伝えることで、少し信頼関係が築ける気がしています。また言葉をキレイに使うことで感謝の気持ちを表すことができ、人への感謝は自

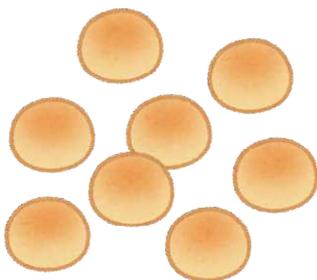
分自身の敬意につながっていくような気がします。

子どもたちには、あたりまえのことに感謝する気持ち、周りのたくさんの方々、支えてくれているすべての人に感謝の気持ちを表現できる人であって欲しいし、自分自身もそうあり続けたいです。

嘘やごまかしのない正直で素直な心と、どんな時でも人に感謝する気持ちを持ち続けることが、もつとも大切なことではないかと思えます。

あの駄菓子屋のおばさんの言葉が懐かしく思い出されます。

「欲張ったらいけないよ」



世界に目を向けよう

くアイアーンに夢をのせてく

教諭 松村 はるか

小学校の英語学習で、「世界に目を向けよう」をテーマに様々な取り組みをしてまいりましたが、そんな中で、昨年の夏にアイアーン (FEARN)に出会いました。

アイアーンは、世界140の国・地域、3万以上の学校が参加する、ICTとグローバルネットを基礎とするグローバルコミュニティです。昨年9月に、早速、会員になりました。活動をスタートしました。昨年度は、受け持ちだった小学校5年生(当時)を中心に二つのプロジェクトに参加しました。

一つ目は、Holiday Card Exchangeというプロジェクトで、世界の学校とカード交換をしました。十一月までにクリスマスカードなどを作って送付し、返事が来るまでは、本当にドキドキ、わくわくしました。十二月に入り、台湾、スロベニア、アメリカ、インドなどから続々とカードが届きました。

いくつかの学校にお礼の動画を送りますと、台湾の清水小学校の先生と私の間に、個人的な交流が生まれ、四月に、動画と一緒に台湾のお菓子を送ってくださいました。

それを受け、学園の子どもたちも、学校紹介や日本の行事紹介などの動画を作成し、山ほどの駄菓子と一緒に清水小学校に送りました。台

湾の小学生の反応が楽しみです。

もう一つのプロジェクトへの参加は、満州引き揚げ難民としてのご自身の経験をもとに、平和を広げる活動をされている、高木洋子さん(82)との出会いに始まりました。高木洋子さんは、長い間アイアーンで

「Machino-Hiroshima/Nagasaki for Peace」というプロジェクトのファシリテーターとして、平和を世界に発信し続けていらっしゃる方です。

昨春秋、学園の子どもたちのためにお時間を作ってください、オンライン交流会を行いました。昨年度は、五年生のみ参加で、絵本「まちんと」を読み、感じ取ったことを絵に描き、それをもとに交流会をしました。そして、その活動報告を、アイアーンを通して世界に発信しました。

今年度は、四年生の国語及び総合学習での平和学習をきっかけに、四年生と六年生の総合学習にお招きし、オンライン交流会を行いました。戦争体験講話だけでなく、戦争に関する学習発表を聞いていただいたり、「どうしたら戦争はなくなるか」をテーマに意見交換をしたり、有意義な時間になりました。

式文聖歌「みんなが平和を」を、高木洋子さんが一緒に歌ってくださいましたが、子どもたちの心に残っているようです。中には、休憩時間P.C画面に「高木洋子さん、大好き！」と話しかける児童もおり、おおらかに子どもたちを包み込んでくださる温かいお人柄に、多くを

学ばずにはいられません。

世界に目を向ければ、戦争や紛争のみならず、貧困・飢餓・格差など様々な問題が浮き彫りになってきます。そして、そういった問題を抱える国や地域の子どもたちが不幸なのかといえ、必ずしもそうではなく、案外、幸福感をもって暮らしていたりもするのです。

日本に生まれてきたからできること。経済大国として。唯一の被爆国として。そして、日本でも、格差やジェンダーなど様々な社会問題と向き合わなければなりません。

まだ、小学生の子どもたちですが、自分たちとは、文化も風習も考え方も、目の色も肌の色も違う子どもたちがいるということを知ってほしい。そして、お互いの違いを、素晴らしいものとして喜び分かち合ってほしい。それは、英語教育に携わる一人の教員としての私の願いであり、夢でもあります。

急速なグローバル化で、世界は変わりつつあります。アイアーンを通して、世界中の子どもたちが交流できるなんて、まさに、夢のようです。

子どもたちは、私の夢や希望をよそに、ひたすらにアイアーンの活動を楽しんでる様子です。世界に目を向け、夢をもって世界に語りかける。その姿は、まさに「平和をつくる人」そのものです。

子どもたちのそんな姿を見ると、長くなってきた教員生活をふりかえっては、教員になってよかったと、秘かに思うのです。

共に：

スクールカウンセラー 井島 素子

小学生の頃から子どもが好きだった私は

「小学校の先生になりたい」と思い、教員免許を取りました。小学校で担任をしていた頃は「クラスの子ども全員に平等に、公平に」という気持ちと「もつともつと一人一人の子どもと深くじっくり関わりたい」という気持ちの間で少し不自由さを感じていました。その後自分の子育てをしながら心理やカウンセリングに興味を持ち、心理士資格を取りました。これまで、小、中学校、高校、大学でスクールカウンセラーを経験してきました。他には教育センターや家庭児童相談室など、さまざまな仕事を通して子どもや保護者とお会いしてきました。学校という空間を共有しつつ、親でも教師でもない今の立場を気に入っています。教員ではない私のことは「いしままさん」と呼んでくださいね。

今年度からステパノ学園に毎週水曜日に勤務しています。この学園で求められる役割は何かと考えながら、一学期が終わろうとしています。

私は小田原在住で、大磯は近いところですし、ホームのことや学園の名前は知っていました。四月に初めてこの学園内に足を踏み入れた時に私が感じたことは、豊かな自然に恵まれ、先生方が、小、中学校の、どの子のこ

とも知っている温かな雰囲気でした。そうして始まった勤務の中で、私が心にメモしたいいくつかのことをお伝えしたいと思います。

毎週水曜日は外礼拝です。小学校一年生から中学校三年生までが学年ごとに並びます。外のバスの通る音や低学年の子の発する声、木々のざわめきの中であつても、中学生の祈りの姿勢は静かです。「一学年でこんなに違うやがてあんなふうに成長していくんだ」と良いモデルを見るような誇らしい気持ちになりました。

授業の間の十分休みには外に出て身体を動かす小学生。時間を意識して授業時間には自然に教室に戻れます。授業の取り組みには個人差がありますが、子ども達は素直です。やるべきことをやろうと思っている子がたくさんいます。「できた」「やれた」時には満足げな笑顔を見ることができます。

中学校三年生の体育の授業を参観させてもらった時のことです。空手の「形」を練習していました。その時のピンとした緊張感。静かにゆっくりとした動作に続く一瞬の強い動きには厳かな気持ちになりました。気合のこもった声も素晴らしかったです。

月曜の礼拝では、その週のお誕生日の人をお祝いします。名前を呼んでもらうことは、大人である先生方もうれしくなると聞きました。「生まれてきてくれておめでとう。ここで出会えたことにありがとう」すべての命が肯

定され祝福されています。

中学校に向かう坂道では生徒たちがよく挨拶をしてくれます。先に「こんにちは」と声をかけてもらうと、急坂を上る私の足取りも軽くなり、いい気持ちになります。

放課後に、職員室や教室で子どもやその日の出来事を話していらつしやる先生方。その声を聴いているだけでこちらも励まされます。私が過去に縛られていた「平等に、公平に」という窮屈なものでなく、「必要な子にはできるだけサポート」することが先生方の当たり前になっているように感じます。

スクールカウンセラーとして、子ども達の学びにどう資することができののだろうかと考え、子ども達の心が成長する様子をしっかりと見届けたいと願っています。今後校内でどのように教育支援していくのか模索中です。もつともつと子ども達のことを知りたいと思っています。相談のない時間は授業中の子ども達の様子を見させてもらっています。先生、保護者と共に、少し先の子どもの姿をイメージしながら、一緒に考え、一緒に歩んでいきたいと思っています。



「小学校」

各学年、約一か月前から練習し備えてきた音楽会が無事に行われました。保護者の方々に来ていただき、満員のお客さんの前で、子ども達は胸を張って堂々と発表を楽しんでいきました。

〈1年生〉

♪イエスママがわたしの
♪ぶんぶんぶん

初めての音楽会！
名前をよばれると
元気よく
「はーい！！！」



〈2年生〉

♪ウワウワいっしょに
♪ゴキウゴキウ

かわいらしい歌と
ふりつけにお客さん
も思わずにっこり！



〈3年生〉

♪ハレルヤ
♪ゆかいなままほ

リズムカルな曲に合わせ
て、パワーあふれる
楽器隊がリズム打ち。



〈4年生〉

♪きょうこんの中には
♪エーテルワイス

歌声もリコーダーも、
落ち着いた美しい響き
でお客さんはうっとり。



〈5年生〉

♪素晴らしい人にキリストは
♪魔法の鈴〜歌劇「魔笛」より〜

さすが5年生、
歌詞の意味をよく考
え、歌い方や声の大き
さを工夫しての発表
でした



〈6年生〉

♪A long lost lamb〜羊のつれづれ〜

6年生は、中学生と一緒に
音楽会に参加しました。
6年間の集大成、堂々と立
派な発表でした。



「中学校」

3年ぶりに保護者の方々の前で音楽会が開かれました。その時の生徒の気持ちが日記に表れています。ぜひご覧ください。

6月13日（火）

今日、中1初の音楽会がありました。息をすいながら歌いました。ものすごくキンチョーして心臓が飛び出しそうなくらいでした。見ないで歌えました。それはきつと練習したからにちがひありません。ちゃんと練習をたくさんして覚えられたことは自分でも「良い所が発見できてよかったです。」と思えました。来年もがんばります。

（中学1年 H・R）

6月13日（火）

今日は音楽会がありました。緊張したけど、たのしかったです。2年生と3年生のを見て、2、3年生はすごいなと思いました。来年はもつと声を出して歌った方がいいかとも思いました。

（中学1年 G・T）

6月13日（火）

今日は四時間目から音楽会がありました。私は小六のピアノがすごい上手だったと思いました。

水平線は今までで一番大きい声を出して歌えたとし、歌詞も間違えずに歌えたので良かったと思います。音楽会、楽しかったです！どの学年も素晴らしかったです！

（中学3年 H・T）

6月13日（火）

今日は音楽会でした。ものすごく緊張しましたが、頑張つて歌い切りました！自分にとっては最後の音楽会だったので、全力で歌いました。最後にステージを降りる時に、足がガクガクして「座ったらアカン！」と思いがら降りていきました。

（中学3年 T・Y）



中学国語 オリジナル枕草子

春は高層雲。

水平状に広がる暗くてうすい雲が月を隠していくのが、とても風情がある。その下で生きる花は美しい。

夏は入道雲。

やわらかく大きく、堂々としている。そんなところが、目を惹きつけて離さない。ゆつくり風に吹かれて動く姿はまるでクジラのような。

秋はいわし雲。

海から飛び出たいわしの大群。一生懸命泳いで泳いで永続く空を生きている。

冬は凍雲。

今にも雪がこぼれ落ちてきそうなほど優しく、包みこんでくれる。寒いのに、見ているだけであたたまる。

（中学2年 M・H）

春は花びら。桜花爛漫はさらなり。

桜の花びらが散り落ちるのものはた麗し。然れど、花粉が散り落ちて舞うのはわろし。

夏は日射し。太陽が照りて世が明かるのはいとをかし。

はた日に焼けるのををかし。



秋は枯れ葉。山の肌、色あせるころに力尽きた枯れ葉たちが、秋の道を作つてゆくのはいとをかし。

冬は雪。寒さが増すにつれ散り落ちる雪も増すのはいとつきづきし。はた吐き出した息が白くなり、大気のみこまれていくのものとをかし。

（中学2年 I・H）



箱根・芦ノ湖を一望できる「小田急 山のホテル」は、かつて岩崎小彌太（一八七九～一九四五）が約十萬坪の敷地を用意して別邸を建てた場所でした。三菱第四代社長であった小彌太は、エリザベス・サンダース・ホームと本校の創立者である澤田美喜先生の父・久彌の従弟に当たり、三菱を分社化して拡大させた功績と共に、文化芸術にも造詣が深く、茶道や俳句、クラシック音楽に親しみ、国宝も含む骨董の熱心なコレクターでもあり、多くの芸術家との交友で知られています。

富士山と芦ノ湖が美しく映える湖畔に別邸を構えることも、当時の日本人としては珍しいことだったようですが、「日本のスイス」を思い描いた立地は、箱根の中でも景勝地として名高い一等地で、小彌太が造園した庭園は、現在も五月には色鮮やかに咲き誇るツツジとシヤクナゲの名地として様々なメディアで紹介されています。この庭園のツツジは、江戸時代に作出の古品種三十種を含む八十四種類約三〇〇〇株に及ぶもので、樹齢一〇〇年を超える株や、希少性の高い品種が、丸く刈り込む「玉仕立て」という手法で手入れをされ、地形を活かして富士山に向かって駆け上がるように、また芦ノ湖に向かって流れ込むよう

に設計され、絵画のような美しさと評されています。また、小彌太が日本で初めて輸入したとされ、学術的にも貴重な西洋シヤクナゲなど約四十品種三〇〇株に及ぶシヤクナゲの植栽も見事です。これらは、後世に伝えるべき貴重な植物として、「ナショナルコレクション」（日本植物園協会）にも認定されています。

スポーツ愛好家でもあった小彌太は、この別邸で、当時は希少なモーターボートに興じ、敷地内にコースを設けてゴルフを楽しむなどして休暇を過ごし、イギリス留学で培った国際性を活かして私的な園遊会の如く宮家から外国の賓客まで多くの来客をもてなしたそうです。ゴルフの知名度も低かった大正時代末には、三菱各社の幹部を集めたコンペの宴席を盛り上げようと、ゴルフボールの形をした和菓子（孝子夫人が考案し、日頃から菓子を納めていた虎屋に作らせた逸話もあります）各席に置かれたゴルフボールの箱を見て、当時高価だったボールの贈り物と勘違いした一同が、中を開けると和菓子だったことで宴席が沸き、大いに盛り上がったそうです。この和菓子は、現在も虎屋で販売されています。



常に国利民福を志した小彌太の足跡を感じる庭園は、近代風景版画で著名な川瀬巴水に依頼した新版画でも、今と変わらぬ華やかさを誇っています。

STEPHEN'S NEWS

実用英語技能検定
第三級合格 中三 O・T

【編集後記】

小学校の児童は、休み時間になると元気に校庭に飛び出し、鬼ごっこやサッカーをして遊びます。中学校の生徒が行う炊事の香りが小学校まで届き、子ども達や先生の話の話題のひとつになったり、駅前を通る電車の音に耳を済ませたり、玄関の水槽にほったくをつけて、小さな海の仲間たちを見つめて一緒に泳いだり（?!）・・・ステパノの夏は、五感で感じる学びに満ち満ちています。

明るい時間帯の長いこの季節、児童生徒、そして保護者の皆様に、神様の時になつた美しい体験が用意されますよう、お祈りしております。（二）



発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇二三年七月十日（月）発行第278号